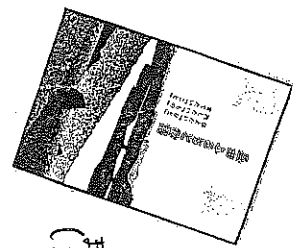


見て・感じて・食べてみよう!! 特別編

名産品づくしの挑戦 - Xoroにかけた思い -
 益田市農協 Xoro部会 初代会長 渡辺巖さん、生産者 須藤寿人さん



参事 文蔵
 益田ふるさと中物語
 (益田市教育委員会)

名産品を作りた!!!

11月をひつろに!! 飯田の人々の挑戦!!

給食に登場するXoroの多々、高津の

飯田地区で作られています。飯田地区は

高津川と白土川の合流地点にできた

中州地形で、水はけが良く、昔から農業が盛んな地域でした。桑や

麦、いも類、夏みかん... 色々なものを作っていました。飯田の

人々には「飯田の名産品を作ることです。」

そのため、同じ時期に同じ作物を作る必要がありません。

そこで考えついたのが「ビニールハウス」です。生産者さんたちは

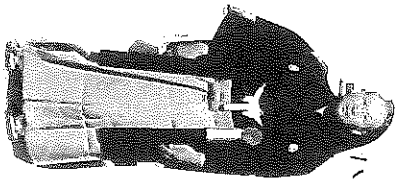
ハウスに適した作物を探しに全国を見学しました。

渡辺さんは、その生産者の人でした。2泊3日で

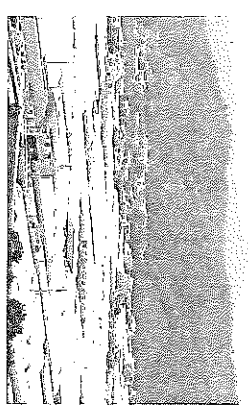
九州を一周し、「これだ!!!」と心をとまかせたのが

宮崎県で見た丸々と実ったXoroでした。

Xoroの作り方を教えてもらうお礼に、益田の地酒を



飯田地区のビニールハウス



辛い4年間を乗り越え、大阪市場で大評判!!!

1973年(今から50年前)アイボリーXoroの試作を始めます。

しかし、Xoroの作りを始めた渡辺さんたちにとては、苦勞の連続でした。

4年間の苦勞の末、ようやく実をつけたXoroは、宮崎で見たXoroとは

程遠い小玉で、とても商品にはならないものでした。それでも、

「絶対村にあきらめない!!!」と強い気持ちで、試行錯誤をくり返し、

たとひつろいたのが「アスXoro」です。これまでの苦勞がようやく

実り、丸々と大きくなったXoroができた時、涙が出るほど嬉しかった

そうです。アスXoroは大阪の市場でとても評判が良く、大成功を

おさめました。

渡辺さん。そして飯田の人々が受け

継いで「大切に育てる」Xoroです。

6月20日の給食のアスXoroは、

作付け50周年を記念して、JA西いわみ

さんからは無償で提供されます。

感謝していただきます!!! (取材協力: JA西いわみ 中村幸太郎)



「レジエント」渡辺巖さん